

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福社会		
事業所名	大東GH あじさいユニット		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地の1		
自己評価作成日	令和3年7月1日	評価結果市町村受理日	令和3年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2172100832-00&SerViceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様同士のもめごと等があった際は職員が間に入り、食堂での席配置も工夫し、より良い人間関係が築いていけるよう心掛けました。居室の中の掃除や、食堂の環境作りにも力を入れました。利用者様が笑顔で過ごしていけるよう声掛けを多く行い、賑やかな空間を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

安心、安定、信頼を柱に利用者が笑顔で毎日が暮らせるように支援している。本人のやりたい事や好きな事が、楽しく継続できるようにフットマッサージ、ネイルやデコルテ等の希望に応じている。コロナ禍で地域の夏祭り、長寿会・予防教室・幼稚園児等との交流、書道クラブやフラワーアレンジメント等の参加制限から、レクリエーションや作品作りに工夫している。IT化を進めパソコン入力で全職員が情報を瞬時に共有し、作業労力の軽減と業務改善にも取り組んでいる。男性の育児休暇取得者もいて、岐阜県や労働局から働きやすい職場の認定を受けている。法人内で研修や職員教育が受講できる仕組みがあり、質の向上にも努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在コロナ禍で全体で集まって朝礼を行うことが困難である為理念の共有として唱和することはできていない。しかし仕事をする際は必ず理念を確認している。	理念を基に毎年事業目標を立て、毎月職員が個人で振り返り実践につなげている。職員が顔を合わせての確認は難しく、法人全体でのコミュニケーションツールで情報を共有している。理念について職員間で話し合いがされていない。	法人の理念を基本にしつつ、現状を踏まえた事業所独自の理念について、職員で意見を交わす機会を設けられることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型施設として外部との関わりを大切に近隣の幼稚園・保育園及びボランティアの方々を積極的に受け入れ入居者様との交流を常に図っている。	子ども110番に登録し、キッズコーナーの場所を提供している。散歩時に住民に挨拶し会話している。地域の会議や清掃に職員が参加している。コロナ禍前は、介護予防教室、いきいきサロン、夏祭り等に一緒に参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で外部との交流の場を設けて認知症の方への理解を深めることはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催する事で事業者・地域双方の意見交換が定期的に行われそれぞれの要望・質問等に応じて議論し解決に向けて共に向上していく話し合いがなされている。	書面会議の為、事前にメンバーから意見を聞き、議事録として送付している。コロナ感染症についての対応、心配や不安への解消等の意見をもらい、事業所としての予防対策と方針を詳細に記録し公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所長を中心として必要に応じて市町村と常に連携し空き情報・現状を発信しさらなるサービスに繋がるよう常に伝えている。	メールや電話で済ます事もあるが、書類提出はできるだけ市に出向き、実情を伝え情報を得ている。介護保険の報酬改定や補助金の手続き等については施設長が対応している。感染症予防物品の寄付を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を主として毎月勉強会を行うことで正しい知識や技術を身に付けサービスの質の向上に努めている。	身体拘束廃止推進委員会が、人権擁護・虐待防止検討委員会として改称し毎月開催している。虐待防止チェックリストを作成し、身体拘束、事故、ヒヤリハットや言葉遣い等について話し合い、拘束しないケアと行動制限しない環境作りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を主として毎月勉強会を行うことで意見交換を行い問題提起している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍で研修に出かける機会はないがズーム研修などの活用も視野に入れて学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は一方的な説明にならないように事例をもとに説明し、都度説明のペースや不明点に気を配っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会の開催にて外部の方々から様々な意見を伺いそれらを文書にまとめ公表するよう努めている。	短時間のオンライン面会又はガラス越しの面会であるが、その時に家族から意見や要望を聞いている。毎月、担当者が写真を添え手紙で本人の様子を伝え、必要時は、その都度意見や要望を聞いている。家族アンケートも実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者への提案を分かりやすい環境作りを行っている。意見に対しては文章にして丁寧に説明し改善を行っている。	職員は、毎月チャレンジシートにて振り返り、意見交換している。毎月の会議は、協議事項を事前に伝え意見を持ち寄って参加し、効率よく進行できるようにしている。管理者は、業務内でも言いやすい雰囲気になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の条件に対して話を聞き働きやすい環境を整えている。有給・育休等取りやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で資格・研修制度を確保している。受けた職員は活かした事を次の職員に広める事ができるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数の施設が定期的に情報をネットワークに意見交換を行っている。今の状態に迅速に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の日常会話をシートに落とし込んでいる。少しでも安心した生活を送れるよう他の職員と連携し理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍の為ケースカンファレンス・ケアプラン等、生活の様子を電話や手紙で報告しその都度家族様の要望に沿ったケアをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様・本人様からの情報を元に必要な支援を職員同士で相談し、できる事を継続して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事はゆっくりでも見守りながら行っていただき、できない所は支援して一緒に行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為カンファレンス・面会はオンラインで行い、家族様・本人様に安心して頂いている。必要なものはお便りで報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出できないが収束したらたくさん馴染みの店にいける様努めている。	家族の協力でかかりつけ医への受診時に馴染みの人に会えるようにしている。葉書の住所を確認したり、電話を取り次いだりしている。コロナ禍前は、馴染みの理髪店、喫茶店等に行ったり、友人や親族が面会に来たりしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の個性・人間性を大切に集団生活の場であることを伝え周りの方との交流をふかめるよう職員が橋渡しをしている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人及び家族から相談があれば親身になって話を傾聴し必要ならサポートできる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のできる事を本人のペースに合わせ支援している。	日常の様々な場面で声を掛け、やりたい事や食べたい物等を聞いている。飲み物やおやつは選択してもらったり、興味ありそうな話題から把握したりしている。困難な人には、表情や仕草から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで暮らしてこられた環境など、他施設や家族様からの情報をしっかり収集し本人様らしさを把握し生活して頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタル測定は欠かさず行い、1人1人の身体状況をしっかり把握し異常があれば速やかに看護師へ連絡するよう連携を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍で家族様を招いてカンファレンスを行うことは難しいが薬を届けて頂いた際や受診の際、ご意向をしっかりと確認している。	半年毎に見直し、家族の意見や本人の意向を取り入れ介護計画を作成している。日々の介護記録を参考にし、毎週のモニタリングや本人の状態に変化があれば、随時見直している。電子カルテで利用者情報はすべて共有できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個々に入居者様の言動・行動について記録に残し、1週間でモニタリングを行い職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望を第一に考え家族様の希望も聞き入れ職員間で共有し柔軟に対応できるようつとめている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為夏祭りや防災訓練は職員のみで行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診ができるよう家族様と相談し、無理な方には往診ができる医師に主治医になって頂いている。	入居時に協力医に変更する人もいるが、かかりつけ医を継続してもらっている。家族が同行し受診時は、状況を書面で知らせ受診後に口頭又は書面で報告を受けている。訪問歯科診療を利用する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態を観察し変わった事があれば看護師に報告し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会を行い病院での状況を伺い情報交換に努めている。早く退院ができる様働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様に状況説明を行いGHでできる事を理解していただき今後どうするのかを話し合い、方針を決め地域の関係者と共に良い終末期となるよう支援している。	入居時に事業所の方針を伝え、本人の意向や家族の希望に合わせている。看取りの指針を定め、法人内での研修や看護師からの指導を得て、家族の意向を確認しつつ情報を共有し看取る人もいる。事業所での看取りをする場合は、看取りプランにて対応し、家族には寝具を準備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のバイタル測定や表情から異常の早期発見に努めている。事故発生に備えて日々意見を出し合い勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練をおこない急な災害に備えて防災意識を高めている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格に合わせ声掛け・対応を行っている。	利用者の生活歴や性格を踏まえ、その人に合わせた言葉遣いや声かけに注意している。毎月のチェックシートで確認し、気になる言動には、管理者がその場で注意する場合もある。○○さんで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いをいつでも伝え得られるような状況を作っている。自身から言えない事もある為表情や仕草から読み取る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食堂でテレビを見て過ごされたり居室にて休まれたり散歩されたりと本人のペースでゆったりと行っている。歌を歌い気分転換も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に好きな洋服を選んで頂けるよう支援している。好きな色など配慮している。髪や爪などに乱れがないよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器拭き等できる事を行って頂いている。本人が食べやすいように切って提供したり器を変えて提供している。	業者の副菜を利用し、ご飯と汁物は事業所で作っている。毎月業者も交えた給食委員会で希望の献立や行事食の検討をしている。食材切り、盛り付けや食器洗い・拭き等を利用者と一緒に行っている。手作りおやつやバイキング等で楽しみな時間に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一部支援、介助を行いながら本人のペースにて召し上がって頂いている。自身で水分を取りにこられたりコマめに水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし歯磨きを行い、自身で届かない所は職員が支援している。磨けない方にはスポンジブラシを使用している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立できる方は自身のペースで行っている。声掛けにて一部介助を行いながらズボンを上げていただくなどできる事を行って頂いています。	トイレの場所をわかりやすく大きな文字で表示し、トイレ排泄ができるようにしている。排泄記録でトイレ誘導し夜間のみポータブルトイレ使用する等自立支援に努めている。オムツから紙パンツ、パッドの種類を変え布パンツに改善した人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトや牛乳を飲む事でお通じを促している。運動を行ったり看護師と相談し腸マッサージ等行っている。必要に応じて下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人がゆったりと入って頂けるよう心がけている。週2回を目安に入りたい方はその都度入浴されている。	温泉の日として大浴場を開放し、希望で毎日の入浴や同性介助も叶えている。状態に合わせて足浴、手浴、清拭や機械浴にしている。嫌がる人には、職員の交代、声かけの工夫や時間をおく等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中眠気が強い時は居室にて休んで頂いたり、その方に合った体勢で休んで頂けるよう確認している。体位交換も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前・日付の確認を二重に行い声掛けし、飲み込み迄確認し見届けている。飲み忘れのないようBOXチェックを行い職員2名で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回程度季節に合わせた行事を行っている。それ以外にもそれぞれできる事や得意な事を理解し日常の家事や気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外へ職員の誘導のもと洗濯物を干しにでかけたり、花や野菜を見る為近所まで散歩して気分転換を図っている。	好天時は近隣の散歩に出かけている。カルチャーホールで過ごしたり自販機でジュースを買ったりしている。花見、祭見物や家族旅行も行けない状況で、庭に出て野菜や花の水やり、洗濯物干しや取り込み、屋外でのバーベキュー等で外気に触れる機会を多くしている。	

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	適切な管理を行うため事務所に預っている。入居者様の希望・意向に合わせ使用できるように支援を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の事を気かけられた時、電話やZOOMを利用し連絡し安心して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要な物を近くに、不必要な物・環境に合わない物は置かない様に努め安心して過ごすことのできる空間づくりをしている。季節を感じて頂くため壁の飾りつけを工夫している。	ユニット毎に季節の壁面・天井飾りや廊下に行事写真や利用者の作品を飾っている。リビングの水槽で亀や魚を飼育している。室温や採光にも配慮し、加湿器、空気清浄機やエアコンの設置、日に3回の換気、手すりやドアノブ等の消毒等で感染症予防にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人に合わせた席を配置するよう努めている。会話を楽しまれる方、落ち着いて穏やかに過ごすことを好まれる方、それぞれに合った空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して穏やかに過ごすことができるよう家族様に相談し、今まで使用してきた家具や好きな物を活かし居心地の良い空間作りを行っている。	使い慣れたTV、ラジオ、タンス、イスや時計等を持ち込み、自分の洋服を引っ掛け、花や作品を飾っている。家族写真や花を眺めたり、趣味の本を読んだり、遺影と話したりと自分らしい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの生活動線を意識し他の方との交流にも気を付け配慮し安全に過ごすことのできる環境を作っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福社会		
事業所名	大東GH なでしこユニット		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地の1		
自己評価作成日	令和3年7月1日	評価結果市町村受理日	令和3年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index_php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2172100832-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意識しやすい場所に事業目標を掲げ理念の共有を行っている。毎月各職員で振り返りを行い実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや長寿の会、幼稚園児との交流を通して地域の一員として繋がりがながら暮らしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中、直接の取り組みは出来ていないが間接的な伝達手段にて発信し地域貢献に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行っており参加していただいた方からの様々な意見を取り入れサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者ととの連絡を密にとり意見交換を行っていき協力して事業に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の勉強会を定期的に行い正しい理解を身に付けている。入居者様への行動制限のない環境を作っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会を行い学んでいる。支援方法についても職員間で意見交換し防止できる体制を作っている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の権利を守る事、またそのための制度について学び理解し活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約が必要になったものは必要性の理解を得て内容の説明を行っている。説明のみではなく気がかりな点などを聞き取り不安の解消をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見交換を行っている。提案された要望を受け止め施設運営に役立っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者様の支援や対応についてのみではなく、様々な施設運営に対する意見も幅広く聞くことのできる環境を作り反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績を認めながら裁量を任せ向上心を持って働けるような環境を整備している。過労働にならぬよう、また有給も適切に取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修を受ける機会をつくり働きながら行える環境を作っている。研修を受けた職員からさらに波及させてフィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中、直接の交流はできないがネット環境を活用し機会を作りサービス向上へと繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や趣味などを参考に会話しながら信頼関係を築いている。そのうえで本人様の想いを聞き安心して生活して頂ける環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月のお便りや、普段こちらからの連絡時に近況報告をすると共に家族様からの要望を伺い安心して頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様家族様の希望を聞き、本人様の状態に合った生活をして頂けるよう検討・相談をし支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業等を一緒に行う事で暮らしを共にする関係を築いている。できる事・できない事を理解し無理なく続けられるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りやカンファレンス、来設時等に最近の様子を報告し家族様にも協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への受診等馴染みの場所へいける様家族様に協力して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士コミュニケーションをとり楽しく生活して頂けるよう支援している。また個々の性格を把握し会話の橋渡しや仲介に入っている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	毎月のお便りで入居者様の状態をお知らせしている。家族様から相談があった時は親身になって丁寧に対応するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困ったり不安にならないよう好きな事を続けて頂き楽しんで生活できるよう支援している。本人の意欲や能力を活かして適度な運動もして頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活習慣や馴染み等をアセスメント等から活用する事で穏やかに安心して生活して頂けるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックか日常での様子顔色等をよく見て観察し異常の早期発見に努めている。不穏になられた時は話を傾聴し安心して頂けるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	上司やリーダー同僚とケアについて意見を出し合い、より良いケアの方法を常に考え実行している。家族様とも連携し行うようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの様子を細かく記録し 1週間毎にモニタリングを行い 評価を行っている。職員間でしっかりと話し合い情報の共有を行いケアプランへ反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	やりたいことや希望を尋ねて、できる限り対応している。家族様からの要望にも可能な限り対応している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設行事・夏祭りなどで地域の方にもたくさん参加して頂きGHの事を知ってもらい理解して頂くよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の協力を頂きながら受診されたり必要に応じて手紙などを書き主治医に確実に伝わるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で体調の変化や表情や顔色・行動に変化が見られる時は看護師に相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は面会に行く事で状況を確認し家族様や病院関係者から情報を聞き早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様との連携を密にし話し合いをしGHでの出来事を説明し、その方らしい終末期が迎えられるよう考慮しながら支援し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎日のバイタル測定や体調の観察を行い看護師と共に連携し早期発見に努めています。また会議や勉強会を行い自分で体験対応できるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い防災意識を身に付け迅速な対応が取れる様訓練を行っている。地域の方も交えて訓練を行う事により意識を高めている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を把握し性格に合った支援を行い各個人を尊重する対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションや行動を観察する事で想いを汲みとり支援を行う。利用者様が自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	観察し行動を理解する事で一人一人のペースにあわせた支援を希望に沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選ぶことのできる方には選んで頂き、難しい方には好みを家族様から聞きその方らしい生活ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器洗い、食器拭きを一緒に行うことで力を活かしている。食事形態も食べやすいよう配慮しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や気温等を観察して食事量にムラがある場合は食事形態を変更するなどし、その方に合ったものを提供している。水分が足りない方には寒天ゼリーなどを提供し摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後声掛けを行い口腔ケアを促している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自身でできる方には見守りで、尿失禁のある方には排泄の間隔を理解して時間で区切りトイレへ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト等排泄に良いものを提供したり下剤を服用し便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を目安にし希望に応じて入浴できるよう支援している。拒否された日は翌日声掛けし入れるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間2時間おきに巡回をし安全確認や体位変換が必要な方への対応を行っている。エアコンや加湿器を使用し快適な環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し薬について理解している。薬の追加や変更があった場合は体調観察し変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク委員会を中心に季節に合った行事を行い誕生日会を開催し生活の中の喜びや張り合いを付け提供をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為人数に注意しながら庭で花を見たり、天気の良い日は洗濯物を干す等の外出支援ができています。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理している。コロナ禍の為に買い物に行くことができず支援はできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家に電話したいと訴えがあった場合、話を聞き家族様に連絡し話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には毎月季節が感じられるように一緒に壁面飾りを作成している。毎日清掃を行い、光や湿度・温度等に気を付け快適に過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ鑑賞やクロスワード、歌の好きな方同士で歌ったりそれぞれのペースで過ごされ、1人になりたいときは居室でゆっくりと過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	用意し持ってきた家具や掛け時計・写真立て等を設置し居心地よく安心快適に過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の配置にも工夫し歩ける方や車いすで自走される方でも安全に移動できるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福祉会		
事業所名	大東GH すずらんユニット		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地の1		
自己評価作成日	令和3年7月1日	評価結果市町村受理日	令和3年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index_php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2172100832-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大東福祉会の理念を理解しそれぞれの行動指針に対して行動するよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの都合で直接の交流はできていないが手紙やメッセージカード等の交換は行う事ができている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	カルチャーホールを終日解放し誰でも気軽に使用できる環境を整えている。介護予防教室や地域の清掃活動を通し認知症への理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し可能な限り家族様や地域の方に参加して頂き困っている事、改善して欲しい事等意見を出して頂きそれらを職員にフィードバックし解決にむけ随時協議している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	可能な限り市町村担当者と連絡を取り合い悩みや相談を随時発信して解決にむけた取り組みを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に4回身体拘束に関する勉強会を行い拘束しないケアに繋がっている。グレーゾーンに関しても意識を高め情報共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記に合わせ高齢者虐待防止チェックリストを全職員が行いその後のケアに活かしていけるよう1人1人が認識し意識を高めている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会の中で成年後見人制度を学ぶ機会があり、どんな方が利用できるのか学べている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険等の見直しが行われた時には面会や電話にて家族様への説明と理解を求めよう働きかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委員会及び合同家族会の中で要望や不安な点等を伺い解決できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話を聞いて下さる姿勢があり傾聴する時間は概ねいつでも作ってくださる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの能力に応じて役割分担されていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ1人1人の力量に応じて勤務内容を変えたり研修を受けるよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じ交流体験を共有できるよう活動できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様との日常生活における会話から思いを読み取り、時には直接的に要望や希望を聞き日常生活に取り入れています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居1か月後にカンファレンスを行い現在の生活の様子を詳しく説明している。本人様・家族様の要望や希望等を聞き日常生活に取り入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様にとって何が必要で何が最善なのか家族様と相談を重ねることから行い自立支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様が出来る事を見極めお願いしている。できない事も職員と一緒に出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンス・手紙・面会等を通して報告し必要に応じて家族様と相互協力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様に協力して頂き安心して生活できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の状況を把握し入居者様同士が関わりを持てるように日常生活を支援している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様・家族様が何か困った事があればいつでも連絡してくださいとお伝えしてある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の想いを尊重し想いに寄り添った支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の日課や大切にされている事を把握し安心して生活していただけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の体調の変化や言動等で問題があれば記録に残し、申し送りでも共有し連携を取って対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを通して家族様や本人様の意見や要望を聞き、それを取り入れた介護計画を検討できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人様の日常の様子を記録に残しモニタリングを行い、それに基づきケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の希望や要望に対応できるように支援を行っている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のおり地域の皆様との交流がなかなかできない状況ではありますが地域との係りを大切にしていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別の主治医を持ち、ご家族様の協力のもと受診されている。必要な事がある場合にはお便りにて近況報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事故や体の異変等があった場合は速やかに報告し日々の状態の変化に注意し看護師に状態を伝え指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は面会に行き状況を確認しご家族様からの情報を得ながら早期退院に向けて働きかけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時に応じ、必要であればご家族様との話し合いの場を設け一番良い方法にたどり着ける様、又その人らしい終末期を考慮しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のバイタルの測定や表情の変化などで異常の早期発見に努めている。スタッフ間で状況の報告をし会議や事例検討など実際に体験し見直しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に防災訓練を定期的に行っています。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の状況に応じ、その方に適した声掛けや支援を心掛けています。居室に入る際は必ずノックをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様の何がしたいのか、日々の行動から職員同士で情報交換をしその方に合った自己決定を支援させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間配分等職員の都合を優先せず利用者様一人一人のペースに合わせ、その方の希望に沿って支援させていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の髭剃りや髪形など 利用者様一人一人着るものを選んだり イベント等にはよそ行きの服を着て頂く等 心がけています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けなど見た目も美しくなる様に気を付けている。食器洗いや食器拭き等できる事はやって頂き役割分担し張りのある毎日を送って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる姿勢や方法、飲み込み具合、形状など日々観察しながら対応している。水分を取れない利用者様には寒天ゼリーにするなどして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをし、ご自分で歯磨きして頂き磨き残しがある場合職員が支援している。義歯の洗浄は洗浄剤を利用し清潔保持に努めている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に応じた排泄の時間ペースで行って頂く。状況に応じてパットの種類を変更している。本人の想いを尊重した支援方法を考えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳やヨーグルトを提供している。体を動かすよう声掛けしている。看護師にも相談し個々に応じた働きかけをしている。排便のない日が続く場合は下剤を服用して頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回を目安にしているが、希望される利用者様にはその都度対応している。体調不良で入浴できなかった時は安定した時に入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	2時間おきに夜間巡視を行い安否確認を行っている。利用者様の体調に応じ早めの静養を取って頂いたりこまめな巡視を行い体調に十分配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し何を服用されているか把握できている。服用後の体調の変化にも気を付け落葉が無いよう粉薬にし、しっかり飲めたか飲み忘れはないかチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人に合った役割分担を考えできる事を行っている。月ごとの行事の参加にて季節感を味わっていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為必要な外出ができない。やむを得ない外出は家族様の協力を得ている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理している。コロナ禍の為に買い物に行くことはできないが自販機で小銭を使いジュースを買って頂いたり支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家に電話をかけたいとの訴えがあった場合は話を聞き、ご家族様に電話をかけ連絡が取れるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日清掃を行い温度湿度光等に気を付け快適に過ごせるよう心掛けています。毎月季節感がでる壁面飾りなど入居者様と一緒に作成し飾るようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人のペースで過ごされており食堂で頭の体操やぬり絵など好きな事をし、テレビを見たい方は見やすい席にするなど配置を考えている。居室で過ごしたい方には声をかけて一人の時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に以前使われていた家具や写真趣味の本などを持ってこられ本人にとって居心地の良い部屋で過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の配置や歩かれる方、車椅子で自走される方など安全に移動できるよう配慮している。食堂の席の幅も間隔を空け動きやすいよう工夫している。		